

ポンヌフ

Bridges of the World

フランス・パリ



フランス・1978年発行

パリの中央部をセーヌ川が東から西へと流れています。多くの橋によって街が一体化されています。現在のパリ市域のセーヌ川には35の橋が架けられていますが、最も古い橋がポンヌフです。訳せば新橋です。この橋は1578年に定礎が行われましたが、三十年戦争などの影響で工事が遅れ、アンリ4世の時代の1604年ようやく完成しました。完成時の設計者としてG.マルシャンの名前が残されています。

シテ島の西端をはさんで、全長が約230m、右岸側（北側）に7連、左岸側に5連の石造アーチが連ねられ、スパンは最大で19.6mです。切石積みで、橋脚から高欄まで一体的に仕上げられています。アーチの形は半円形に近く、左岸側のアーチの基部には「牛の角」と呼ばれる隅切りが見られます。そして橋脚の上には深いバルコニーが設けられています。欄干の張り出し部の下には怪人の顔の彫刻が並べられていて、重厚な古い時代の様式を感じさせるデザインになっています。

また、シテ島の下流側にはアンリ4世の騎馬像が建て

られ、ポンヌフのシンボルになっています。

この橋が「新しい」と認識されたのは、その規模もさることながら、橋の上に家がなく、車道と分離されて広い歩道が設けられていたことでした。人々に新しい街づくりが始まる予感を与えたためでしょう。

それまでもシテ島へ渡る橋は4橋が架けられていましたが、橋の上に商店や住居が並ぶ、いわゆる家橋でした。「新しい」橋の上では川面の空気の流れが感じられ、ルーブル宮などの広々とした眺望が確保されるなど、人々はいわば街の気を実感できました。歩道上では露天商や大道芸人などが衆目を集め、多くの人々が散策を楽しむ賑わいの場となりました。

ポンヌフは1851年から1855年にかけて大規模な補修工事がなされ、橋面が低くされ、幅員は広げられて22mと現在の姿になりました。同時に怪人面の彫刻も作り直されました。そして橋の上の出店は許されなくなり、通行のためだけの橋になりました。



撮影：松村 博